

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890300035
法人名	社会福祉法人 正和会
事業所名	九島グループホームやすらぎ
所在地	〒798-0098 愛媛県宇和島市蛤95番地3
自己評価作成日	平成24年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームは市内から目と鼻の先にある九島という漁業とみかん、レモン、キウイ等の柑橘類の栽培が盛んな島にあります。当施設の周囲はみかん畑で、目の前はすぐ海というのどかな風景の中にあり、天気の良い日は正面の鬼ヶ城から美しい朝日が昇ってきます。島の方々は温かく、ホームのことを気にかけてくれています。ホームの特徴は入居者だけでなく職員もほとんどが島の方で、昔からの馴染みの関係ができています。また、高齢化が進む島にある唯一の高齢者施設ということで、地元の期待も大きいと感じています。「笑顔と真心でやすらぎを」という基本理念のもとで、いつも利用者職員と職員の笑顔が絶えない、地域からも愛される空間を創っていきたくと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●利用者が知人に会う機会を増やせるよう、事業所では、曜日や時間を調整して人の集まる場所に出かけられるよう支援されている。たとえば、診療所通院日を同級生と合わせたり、移動販売車が来る日に出かけて、地域の方達と顔を合わせられるよう支援し、お互いに声をかけ合える関係が作れるよう取り組まれている。併設のデイサービス通所者とは、日々交流があり、顔馴染みとなっており、合同の行事等で楽しんでいる。
●今春から、利用者少人数で外出できるよう、取り組み始めておられ、職員は2名体制で支援されている。対岸の道の駅「きさいや広場」に出かけるような際には、ご家族と会えるように連絡を取っておられる。又、買い物をしたり外食して楽しんでいる。日常的には、散歩や買い物、島の灯ろうがある場所を巡ったり、島一周をドライブすることもある。車に酔う方は、テラスで過ごしたり、近所を散歩して過ごされている。島内のお宅のバラ園を見に行かれた利用者が、「来年もバラを見に来られるように」と、歩行器に頼らず歩行練習をし始められたようなこともある。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームやすらぎ

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

舟田 達也

評価完了日

24年 8月 17日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人の基本理念に基づき、グループホームやすらぎ独自の介護目標を毎年度作成している。	
			(外部評価) 法人の基本理念、「笑顔と真心とやすらぎを」と共に、「職員の意識付けになる」と考えて、毎年度、新たに事業所の目標を立てておられる。今年度の目標は、「入居者の可能性を見出す」「入居者、家族との信頼関係を構築」「サービスの質の向上」「医療機関との連携」「地域との交流」と5項目決めて、玄関に掲示されていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、地域との連携に努めている。地域行事等への参加を通じ、地域の幼稚園、小学校、ご近所との交流に努めている。	
			(外部評価) 島のフェリー乗り場に、事業所を紹介するパンフレットや法人新聞を置かせてもらうようになり、問い合わせの電話が寄せられるようになったようだ。小学校の運動会に毎年参加されていることから、利用者が参加できる種目を加えてくださったり、又、幼稚園からはお花をもらったり、園児が来て歌やダンスを見せてくれる等して交流をされている。公民館の催しごとは、利用者がその場に長時間居ることが難しいことを理解いただき、後日、事業所に来てくださり、同じ踊りを見せてくださっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 他事業所と協力し、認知症サポーターキッズ講座を地元小学校にて開催。 また、電話や訪問等による相談にその都度応じている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議で、事業所の取り組みや入居者の生活状況を報告する機会を持ち、地域からの事業所に対するご意見等を頂いたり、事業所からも地域の方に協力をお願いしたりしている。</p> <p>(外部評価) 会議には、自治会長等の地域の方やご家族も参加されて、毎回、議題を決めて話し合っておられる。特に、昨年からは、災害対策について具体的に検討されており、事業所からは、「時間帯によっては近隣の方達にご利用者の避難等の協力をお願いしたい」ことを伝えておられる。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に市担当者に参加して頂き情報交換を行っている。また、地域包括支援センター主催の研修会への参加、協力を行っている。</p> <p>(外部評価) これまでは、グループホーム連絡会は市が主催して下さっていたが、現在は、地域の11事業所が主催で継続して行っておられる。年、2~3回、地域包括支援センターの研修や認知症サポーター養成講座等のお手伝いをされている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束禁止の研修を受け、意識付けを行っている。日中、玄関の鍵は施錠していない。</p> <p>(外部評価) 毎年、職員は、法人主催の身体拘束や虐待防止の研修を交代で受けておられ、事業所内で内容を周知する機会を作り、すべての職員が拘束をしないケアを意識して取り組めるように、仕組みを作っておられる。各居室、掃き出し窓となっており、利用者は自由に外に出られる環境となっているため、利用者の状態等によっては、ご家族に了解を得て窓にチャイムを取り付け見守っておられる。利用者が一人で出かけて行かれて、島の住民の方が連絡して下さったようなこともある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人全体で高齢者虐待防止に関する研修の機会を持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修で学ぶ機会を設けているが、この制度に触れる機会が少なく、職員全体として知識が低い。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前に、本人及び家族と十分に話しあう機会を持ち、説明を行い、納得の上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時、ご家族宅への訪問時や手紙、電話等で入居者の生活状況をお伝えし、入居者、家族からご意見を伺っている。意見、要望等を運営推進会議や職員会にて話し合い、意見を求めるようにしている。 (外部評価) 法人新聞に加え、事業所便りも発行し、日頃の活動状況をご家族に報告されている。又、金銭出納明細書や推進会議録も送付して、現状を知っていただけるよう取り組まれている。ご家族から「本人のできることはやらせてほしい」という暮らしへの希望は、介護計画に採り入れて支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			定期的な会議、ミーティング等、スタッフの意見を聞く場を設けている。	
			(外部評価)	
			1月から毎月職員会議を行うようになり、日々の申し送り等の伝達等、より情報が職員に正確に伝わるようになったようだ。又、職員会議の1週間前に議題を決めて、欠席する職員は文書で意見を出す仕組みを作っておられ、職員から積極的な意見が出されるようになったようだ。職員から、「島外への外出レクリエーションを少人数で実施してはどうか」という提案があり、採用して、利用者の希望をさらに反映できるよう、取り組み始めておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			有資格者に対する処遇改善を図り、職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			年間の研修計画を作成し、研修への参加の機会をできるだけ確保している。また、研修案内を職員に開示し、各自のスキルアップにつながる支援を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			圏内のグループホーム交流会、地域密着型サービス協会を通じて、他事業所との交流の機会を設けている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用相談があれば、ご本人に会い、その方の現状を把握し、ご本人の意向や気持ちの理解に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用相談のときに、ご家族の困っている状況を伺い、不安の解消に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用相談時にご本人、ご家族の話を伺い、当GHを利用するより良い方法があれば他事業所への紹介等を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者と共に、掃除、畑の手入れ等を行う中で支えあう関係を構築できるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族と連絡を取り合い、共にご本人を支えていけるよう努めている。ご家族と連絡を取り合い、定期的な外泊や随時の外出の支援をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 島内の馴染みの場所での買い物や、島内の散歩をしながら島内の方と会話をする機会を持っている。馴染みの方々が来易いようにスタッフが送迎をしている。 (外部評価) 利用者が知人に会う機会を増やせるよう、事業所では曜日や時間を調整して人の集まる場所に出かけられるよう支援されている。たとえば、診療所通院日を同級生と合わせたり、移動販売車が来る日に出かけて、地域の方達と顔を合わせられるよう支援し、お互いに声をかけ合える関係が作れるよう取り組まれている。併設のデイサービス通所者とは、日々交流があり、顔馴染みとなっており、合同の行事等で楽しまれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お互いの関係の把握に努め、その都度状況に応じてスタッフが支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了したり、入院等で中断した時は、家族、本人とこれからの生活について話し合い、その都度、相談に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人の希望や意向を伺いながら、できる限り応えている。対応が困難な場合はご本人に説明をしている。毎日の生活の中でのコミュニケーションを通じて気持ちを汲み取ることができるよう、情報の共有に努めている。 (外部評価) 法人が作成している記録様式を用いて、利用者やご家族からの情報を集めておられる。「ケアチェック表」は、「職員が手伝える部分」「利用者本人ができる部分」が一覧できるようになっている。午後からの時間等、ゆっくりした時間にお聞きすると、新しい情報を得ることもあるようで、職員は記録に情報を追加されている。職員は、利用者が手芸が好きだと分かれば編み物道具を用意して、利用者の「できそうなこと」を試しておられ、マフラーを編みあげたり、一人でボタン付けできる等、「できること」「楽しみ」が増えた方もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前の面談の際にご家族やご本人、サービスを利用していた事業所等からお話を伺い、把握に努めている。利用後はご本人との関わりの中で、情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者個人個人の生活リズムを把握し、各スタッフで情報の共有に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 定期的にかかりつけ医を受診し、健康面のチェックをして頂いている。必要に応じて家族にも同伴してもらい、病状を把握してもらい、今後の事について話している。3ヶ月に1回職員内の担当者会議にて計画の検討、見直しを行っている。面会に来にくい島外に住んでいる家族については、電話や手紙にて意向の確認をしたり、プランの説明をしている。</p> <p>(外部評価) 介護計画には、利用者の発言や、ご家族の意見、職員で話し合ったことを採り入れて、利用者やご家族に確認いただき同意を得るようにされている。3ヶ月毎のモニタリングを行っておられ、変化があったら見直しをされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護経過記録及び日誌、引継ぎ、掲示板等にて情報を共有している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご本人や家族の希望にはできる限り応えるようにしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域行事へ参加し地域の方々と交流を行うことで地域資源を把握し、時には協力を依頼している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 島内の診療所にスタッフが付き添い、定期的を受診している。入居者さんの状態によっては往診をしてもらうこともある。島外の病院を受診する際は家族に相談し、付き添いをお願いすることもある。	
			(外部評価) ほとんどの利用者は、島内の診療所がかかりつけ医となっているが、入居前の医療機関に通院されている方もあり、島外通院の場合は、フェリーから降りたら、ご家族と交代して付き添ってもらっている。診療所は緊急時であれば夜間でも診てくれるため、事業所にとって心強い存在となっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 当グループホームの担当看護師に定期的な訪問を受けている。また、診療所の看護師さんにも相談に乗ってもらいながら、入居者の方々の健康管理を行っている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入居者の入院時は医療機関に情報提供を行っている。また、適宜の訪問、連絡をして情報交換を行っている。入退院時以外では、病院の連携室から入居依頼の相談に応じている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化に向けた指針、看取りの指針は整備し、家族への説明を行っている。ご本人の病状の進行の際に家族に事業所でできることを説明し、意向を確認している。また、必要に応じてかかりつけ医より家族に病状の説明をってもらうこともある。	
			(外部評価) 入・退院時の、かかりつけ医からの説明は、職員もできるだけご家族と一緒に聞くようにされており、さらに、職員は、ご家族と具体的に話し合う場を作り、ご家族の不安や心配ごとへも気を配っておられる。現在は、利用者が重度化してくると事業所の方から、施設入所の申し込みについてご家族にすすめておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な研修、訓練は受けることができていない。随時、看護スタッフにアドバイスを受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 緊急事態に対するマニュアル、緊急連絡網を作成している。近隣の方々や消防団の方々の連絡先を伺い、緊急連絡網を作成している。年2回の避難訓練を実施している。	いつ起こるか分からない地震や津波等を想定して、事業所が「地域に協力してほしいこと」「地域に協力できること」等、運営推進会議の機会等を活かして明確にされてはどうか。地域と協力し合って、みなさんの安全を守るよう、今後も、具体的な取り組みをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 昨年の東日本大震災時、事業所が所在する地域にも避難警報が発令され、津波到達までに時間はあったが、消防団の警告で避難場所まで避難された経験がある。大きくはなかったが波が押し寄せるのが見えたようだ。事業所には、サイレンが聞こえないため、経験に基づき、地震の揺れを感じたら、「ともかく避難すること」を決めておられる。又、夜勤者は、手元に車のキーと携帯電話を持っておくように決められた。非常用リュックには、一晩分以上の水やゼリーを常備されている。現在は、15分～20分で利用者が車に乗り込むことができるが、車を運転できない職員もあり、さらにクリアすべき課題もあるようだ。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者、スタッフも島内の方なので、事業所内外での個人情報の取り扱いについては職員に周知できている。	
			(外部評価) 職員は、排泄の機能低下への対応に注意を払い、「できるだけ利用者に恥ずかしい思いをさせない」よう、ケアに配慮されている。個人情報の取り扱いについては、新人研修時に周知し、小学生からもらう年賀状に利用者名を教えたり、掲示物や配布物への写真掲載については、利用者のご家族に了解を得るようにされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中での関わりを通じて、入居者の自己決定を促すことができるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1日の生活の基本的な流れはあるが、入居者の希望や状況に合わせてできる限り対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族とも相談しながら、ご本人の好みに合わせた身だしなみができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備や片付けは入居者と一緒に行っている。毎月、栄養士の方が2名来られて、料理教室を実施している。 (外部評価) 業者から食材が届き、併設デイサービスの厨房で作った食事が届くようになっている。夏祭りには、みんなで野菜を切る等してバーベキューを楽しまれた。さらに、炊きたてのご飯が楽しめるように、事業所でごはんを炊いており、現在は、「朝食を事業所で作る」ことに向けて、味噌汁を作ることを試みておられるところである。	事業所は、「利用者の一番の楽しみは食べること」と考えておられ、利用者主体の食事を支援できるように、食事一連を通じて利用者の持っている力等も活かし、おいしい食事をより楽しめるような支援に工夫を重ねていかれてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の好みや嚥下状態、病状に合わせた食事の提供に努めている。水分補給も同様に、個々の好みや状態に合わせて提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアを実施し、誤嚥の予防、口腔清潔の保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 入居者の日々の排泄状況を把握し、トイレの声かけのタイミングを工夫したり、尿取りパットの使用の工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 現在は、ご自分でトイレに行ける利用者ばかりではあるが、失敗した場合すぐ介護用品を使うのではなく、「どういう支援があれば自分で排泄ができるか」に焦点を当てて話し合われている。トイレの声かけについても、利用者それぞれの排泄と排泄との間隔等を把握して支援することで「トイレに間にあわない」ということが減っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 水分摂取量の把握に努めている。個々の好みに応じて(ジュース、スポーツ飲料)摂取を促している。便秘時はかかりつけ医から処方されている下剤で対応している。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 入居者個々の意向は確認しているが、時間帯は設定させてもらっている。夏場は畑作業等で汗をかいたときは随時シャワーを浴びている。</p> <p>(外部評価) 利用者ごとに、おおまかに予定を立てて入浴を支援されている。暑い時期には、回数を多くしたり、シャワー浴も加えたりされている。重度化した場合は、デイサービスの機械浴が利用できるようになっている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 入居者の状況に合わせ畳を使用したり、不安がる入居者の部屋はシャッターを閉める等の工夫をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の用法、用量が変更される時は、薬の作用、副作用について各スタッフに伝えている。 処方箋を個々のファイルに綴じている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 畑の手入れ、施設周りの清掃を入居者の方をお願いしている。気晴らしに散歩や、釣り、島内巡りのドライブを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 島外へ度々行くことは困難だが、家族の理解、協力を得ながら、島外も含め外出の支援を行っている。 (外部評価) 今春から、利用者少人数で外出できるよう、取り組み始めておられ、職員は2名体制で支援されている。対岸の道の駅「きさいや広場」に出かけるような際には、ご家族と会えるように連絡を取っておられる。又、買い物をしたり外食して楽しまれている。日常的には、散歩や買い物、島の灯ろうがある場所を巡ったり、島一周をドライブすることもある。車に酔う方は、テラスで過ごしたり、近所を散歩して過ごされている。島内のお宅のバラ園を見に行かれた利用者が、「来年もバラを見に来られるように」と、歩行器に頼らず歩行練習をし始められたようなこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人の希望や状況に応じて、ご自身で管理してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族、ご本人の希望に応じて、手紙や電話のやり取りを支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 室内の飾り付けを季節ごと(正月、ひな祭り、端午の節句等)に変更している。 テラス前の花壇には季節の花を入居者と一緒に植えたり、木の手入れを行ったりしている。	
			(外部評価) 利用者同士のトラブル等もあってテーブルの席順を変更するようなこともあるが、しばらくの間は大きく名前を貼って、ご自分の座席が分かるようにされている。居間からも海が見えるが、一步外に出て植木やプランターの花に囲まれたテラスの椅子に座って眺めることもできるようになっている。毎日、掃除機やモップで居間を掃除してくださる利用者もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テラスに長椅子、テーブルを置き外でゆっくり過ごせるよう工夫している。共有空間が狭いため、テレビを見る方、話したり歌を歌ったりする方等その時に合わせてスタッフがテーブルを分けている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) できる限り、自分の使い慣れた物を持参してもらっている。また、家族や自分の好きな物を飾り付けている。	
			(外部評価) 各居室に洗面台が付いており、整容したり、お化粧する方もある。3室にはトイレも付いている。ご家族と一緒によく旅行される利用者がおられ、湯布院で撮った写真を引き伸ばして飾っておられた。読書のお好きな利用者は、好きな時間に居室に戻り、椅子に座って本を読んで過ごされる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ご本人の身の回りのことやできる事は自分で行ってもらっている。畑の手入れや玄関周りの掃除等、手伝いをしてもらっている。自分の部屋で洗濯ものが干したい方のために部屋に衣類掛けを設置している。	
			(外部評価)	